

韓国語教育における TV ドラマの活用方法に関する研究

A Study on How to Use TV Dramas in the Korean Language Education

李 君在[※]

Kun-jae Lee[※]

Abstract :

Recently, with regard to foreign language education and study, stress has been laid on acquiring practical communication capability, with active use of lessons that make use of TV dramas etc at educational locations.

TV drama, being one of the media with which students have extremely easy contact in usual life, can draw out study motives and interests, and moreover, is practical compared to texts used at educational locations.

In particular, TV drama dialogue is language usually used by native people ; further, offering actual communication and scenes to students who have few chances of direct communication with people of the target language region, it is a high-value educational resource from the point of view of giving a chance of indirect experience.

However, at present, hardly any research has been done related to using TV drama for foreign language education, starting with the lesson method of using TV drama, plans for using drama to improve the 'listening, speaking, reading, writing' language functions etc.

Accordingly, by this research, considering points regarding the significance and selection of using TV drama for Korean language education, application methods and concrete lesson models to improve the 'listening, speaking, reading, writing' language functions are proposed.

Keywords : Korean language, Korean language education, TV drama, language functions

I. はじめに

外国語教育及び学習の基本的な目標は、自然なコミュニケーション能力を身に付けることである。その最良の方法としては、母国語を遮断し、目標言語のみに接することであろう。しかし、多くの場合、それは現実的に難しく、教室という制約された環境の中で、最も効果的な外国語の教育・学習方法は何かを考えなければならない。

勿論、韓国語教育の現場においても、実用的なコミュニケーション能力の習得が強調され、TV ドラマや映画、新聞等を利用した授業が活発に行われている。特に、TV ドラマの場合は、普段の生活の中で学習者が接し易いメディアの一つであり、学習動機や興味を引出すことができ、さらに教室で使われているテキストに比べて実用的である。

また、ドラマのセリフは、現地の人々が普段使っている言葉であり、目標言語圏の人々との直接的なコミュニケーション機会が少ない学習者に実際のコミュニケーション・シーンを提供し、間接的な

※日本経済大学経営学部経営学科

体験ができるチャンスを与えてくれるという点において実用性の高い教材である。

しかしながら、現在、TV ドラマを活用した教授方法を始め、「聞く・話す・読む・書く」の言語機能の向上のための活用方案等、韓国語教育における TV ドラマの活用方法に関する研究は、殆ど行われていない。

従って、本研究では、韓国語教育において TV ドラマを活用することの意義と選定における留意点について考察し、「聞く・話す・読む・書く」の言語機能を高めるための活用方法や具体的な授業モデルを提案する。

II. 韓国語教育における TV ドラマの活用意義

韓国語教育において TV ドラマを活用する第一の意義は、現地の言語や生活環境、文化等の一般的な内容がすべて含まれている資料として、間接的な経験ができることである。ドラマを韓国語教育に適切に活用する場合、言語学習に加え、自然な文化教育ができ、学習への興味や関心を引き起し、持続させることができる。

韓国語教育において TV ドラマを活用することは、【表 1】のように幾つかの意義がある。

【表 1 韓国語教育における TV ドラマの活用意義】

側面	活用意義
学習動機	学習動機付け、興味を維持することができる
言語教育	実用的な言語を提供する 総合的な言語教育を可能にする
文化教育	文化の理解が自然にできる 非言語コミュニケーションの方法を提示する

1. 学習動機

1) 学習動機付け、興味を維持することができる

自分の好きな俳優が出ているドラマは、言語学習のための動機付けに繋がる。さらに、ドラマが提供する視覚的な要素や興味深いストーリー展開、躍動感溢れる音響等は、学習への興味や関心を持続させることができる。

また、学習者は、ドラマの中のネイティブスピーカーの言葉を理解した時に、達成感を覚えたり、ドラマに没頭するようになり、より積極的に授業に参加するようになる。

2. 言語教育

1) 実用的な言語を提供する

外国語を教室のテキストのみで学んだ学習者が、実際コミュニケーションを行う際、口語表現や文章成分の省略された表現等によって上手くコミュニケーションが取れない場合が多い。特に、韓国語の口語の場合、語順の縛りが緩く、文章成分や音韻・音節の省略と縮約が起きやすいという特徴によ

り、学習者に混乱を与える。

しかし、TV ドラマを利用すれば、学習者に自然と口語に接する機会を与え、現地の人々の言語活動の様子を体験できる。例えば、現地の人々の話すスピードやイントネーションに接することができ、相手の性別・年齢・職業・感情等に基づく言語使用の違いまで自然と認識することができる。

2) 総合的な言語教育を可能にする

外国語教育は、「聞く」を中心にして「話す・書く・読む」機能と連携し、教育を行うことにより、言語能力を総合的に向上させることができる。

例えば、ドラマを見た後、その内容を把握し、ロールプレイやグループディスカッション等を行うことにより、「聞く」と「話す」の言語機能が連携される。また、ドラマの台本の一部を提示し、単語や文章を書き込んだり、内容を要約したり、自分の意見をまとめたりすることによって「聞く」と「書く」の言語機能が連携される。そして、文学作品を原作とするドラマの場合は、「読む」と連携した教育も可能である。

このような教育を学習者の言語レベルや知識、文化的背景などを考慮して行うと、効果的な言語教育になる。

3. 文化教育

1) 文化の理解が自然にできる

ドラマのストーリーの中には、現地の日常生活を始め、風習や宗教、学問、芸術、制度等が自然に表現されている。そのため、学習者は目標言語圏の文化に自然と接することができ、それを理解する上での多くのヒットを得ることができる。

また、ドラマの内容は、その国の文化と密接に結び付いている。例えば、物語の設定や行為、意図、人物関係等にはその社会の中で通用する文化的価値が溶け込んでいる。その故、外国語学習者はドラマのストーリーを追うことで目標言語圏の価値観や一般的な考え方まで理解することができる。

2) 非言語コミュニケーションの方法を提示する

学習者の実際のコミュニケーション様子を見ると、言語知識の習得や言語駆使力に関係なく、非言語的表現が理解できず、十分なコミュニケーションに至らない場合が見受けられる。特に、非言語コミュニケーションの類型や意味は、其々の文化圏ごとに独特の意味と形態を持つため、それに対する理解がなければコミュニケーションそのものが十分でなかったり、誤解を招いたりすることもある。

しかし、TV ドラマの映像を通して提供される現地の人々の表情や身振り、姿勢等は、目標言語圏の人々とのコミュニケーションの機会が少ない学習者に非言語的コミュニケーションのための有用な情報を提供することができる。

Ⅲ. 韓国語教育における TV ドラマの選定基準

TV ドラマは、現地の言語や生活、文化等の全般的な内容で構成されている。そのため、学習者にとっては言語資料としてだけでなく、文化資料として、あるいは現地の生活を間接的に体験できる体

験資料としても十分な価値がある。

しかし、すべてのドラマが教育の現場に用いることができる訳ではない。例えば、教育目標に相応しくないドラマを選択すれば、教育効果を適切に発揮することができないのみならず、逆効果をもたらす場合もある。

授業でTVドラマを上手く使いこなすための重要な手順の一つは、どんなドラマを選ぶかという選定の手順である。教育資料としてのドラマは、授業の目標や学習対象等を考慮して慎重に作品を分析し、判断しなければならない。

本章では、韓国語教育においてTVドラマを効果的に活用するための選定基準として、【表2】のように4つの側面から考察する。

【表2 韓国語教育におけるTVドラマの選定基準】

側面	選定基準
学習者	学習者の興味を引き起すことができる
言語	方言や俗語が少ない 専門用語が少ない 会話のスピードが遅くない
内容	暴力的な内容が少ない 民族感情を刺激しない
構成	様々な素材を含んでいる 時代背景が現代である ストーリーの展開が遅くない

1. 学習者

1) 学習者の興味を引き起すことができるドラマを選ばなければならない

韓国語教育においてTVドラマを用いる一つの理由は、学習者の興味を引き起すことができるからである。興味を誘発することができないドラマを使って授業を行っても、学習者の積極的な参加を促すことができず、集中力も落ち、望ましい学習効果は得られない。

従って、ドラマを選定する際は、学習者のレベルや好み等を考慮し、興味を引き起すことができるドラマを選ばなければならない。

2. 言語

1) 方言や俗語がたくさん使われているドラマは避けなければならない

基本的には、TVドラマを用いての授業も言語教育なので、言語教育の目標を達成するためには、標準語が使われているドラマを選ばなければならない。例えば、ドラマの内容が芸術的に高い評価を受けている作品であっても、主人公が方言を使っていれば、そのドラマは避けなければならない。標準語の問題に加え、過度に俗語が使われているドラマも同じである。

TVドラマは、実生活を背景に作られたものであり、よりリアルに表現するためには方言を使わざるを得ない場合もある。しかし、理解することが難しい方言や俗語がたくさん使われているドラマは

避けなければならない。

2) 専門用語が多く使われているドラマは避けなければならない

医学や法律、宗教、芸術等の専門ドラマは、現地の人々もよく分からない単語や表現が多く使われているため、画面の下に解説の字幕が入る場合も多い。

このような専門ドラマの場合は、学習者にそのドラマを理解するため、普段使われてない専門用語を学習しなければならないという負担を負わせることになる。従って、専門用語が多く使われているドラマは教材として避けなければならない。

3) 会話のスピードが速すぎるドラマは避けなければならない

多くの外国語学習者が「聞き取り」を難しいと思うのは、教室で口語テキストを主教材として使っていないことがその原因の一つであるが、その他にも話すスピードが大きく影響している。

ドラマは、実生活を再現しているため、話すスピードが速すぎる場合が多い。会話のスピードが速すぎると、学習者の理解を妨げることになる。

学習者がドラマの話すスピードに合わせることを難しい点を考慮し、会話のスピードが速すぎるドラマは避けなければならない。例えば、現地の人聞いて少し遅いと思われるぐらいのドラマが適切である。

3. 内 容

1) 暴力的な内容のドラマは避けなければならない

暴力的な内容のドラマは、教室という公的な場所で利用するには適切ではなく、避けなければならない。

ドラマは、時代や社会の流れを反映しているため、ここ数年の間刺激的な内容のドラマが人気を集めている。しかし、このような内容のドラマを利用したい場合は、問題のシーンを削除し、教育に必要な部分のみを編集して使うことができる。

2) 民族感情を刺激するドラマは避けなければならない

民族や国家間の問題は、学習者の性質によって敏感に感じ取る場合があるので、民族感情を刺激するようなドラマは避けなければならない。歴史的な大きい事件じゃなくても、民族感情を刺激する余地があるドラマは避けなければならない。

4. 構 成

1) 様々な素材を含んでいるドラマを選択しなければならない

韓国語教育において TV ドラマを活用する利点は、実生活の色々な状況に応じた言語学習ができることである。しかし、特定の状況、または特定の登場人物の会話のみで構成されているドラマの場合は、このような学習者のニーズを満たすことができない。学習者に様々な状況を提示し、コミュニケーション能力を向上させることができるドラマを選択しなければならない。

2) 時代背景が現代のドラマを選択しなければならない

親しみのない語彙や現代社会と懸け離れた時代を背景にして構成されたドラマは、学習者に混乱を

引き起こす。

例えば、過去を時代背景にしている場合は、その時代の状況を再現するため、その時代に相応しいトーンや表現が使われている。このようなドラマは、歴史や伝統文化を伝えることはできても、現代と異なる表現や漢字語が多く、学習者が難しいと感じるようになる。

従って、コミュニケーション能力の向上を目指す教育現場では、現代を反映しているドラマを選択し、時代劇は避けなければならない。

3) ストーリーの展開が速くないドラマを選択しなければならない

ドラマのストーリーが徐々に展開されていくのではなく、過去と現在または未来が入り交じり、時空を行ったり来たりするようなドラマは、学習者の理解を困難にする。また、登場人物が多すぎて誰が誰なのか分からない、ストーリーが複雑に絡み合って内容の理解が難しいドラマは避けなければならない。

上述の選定基準は、学習者の学習動機に基づいて再考されなければならないと、実際の教育現場で考慮すべき選定基準は、この他にも色々考えられる。また、場合によっては選定基準から外れた作品でも教材として価値があると思われる部分がある際は、編集して活用することもできる。

IV. 韓国語教育における TV ドラマの活用方法

韓国語教育の基本目標は、自然な韓国語コミュニケーション能力を習得することであり、このような目標を達成するためには、「聞く・話す・読む・書く」の4つの言語能力を総合的に育てなければならない。これらの4つの言語機能を連携し、総合的な教育を行う上で、TV ドラマの活用は有効な手段であり、どのように活用するかによって教育効果は明確に異なる。

実際、授業でドラマを活用するためには、どのような活動パターンを利用し、どのように授業モデルを設計するかを考えなければならない。まず、「聞く・話す・読む・書く」の4つの言語能力を高めるための活動パターンを提示すると、次の通りである。

【表3 韓国語教育における TV ドラマの活用方法】

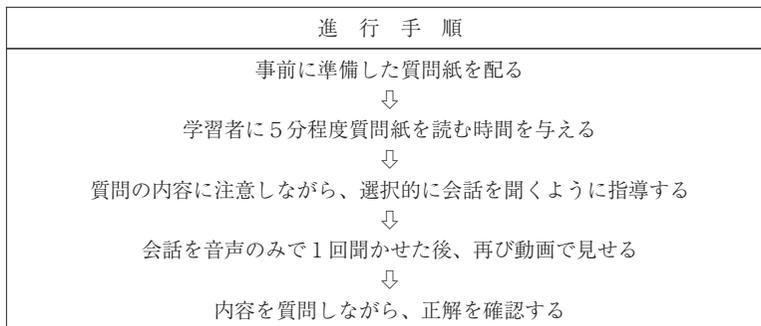
教 育	活 用 方 法
聞 く	状況を分析しながら聞く 聞いて真偽を判断する
話 す	議論する
読 む	台本を読む ダビングする
書 く	書き取る 内容を要約する ストーリーの続きを書く

1. 「聞く」教育

「聞く」は、4つの言語機能の内、音声言語に関連する機能であり、日常の言語活動を行う上で最も多くの割合を占める機能である。特に、学習者が新しい言語に接した場合、「聞く」機能が最初の直接経験になり、自分の考えや表現のベースを形成する。

1) 状況を分析しながら聞く

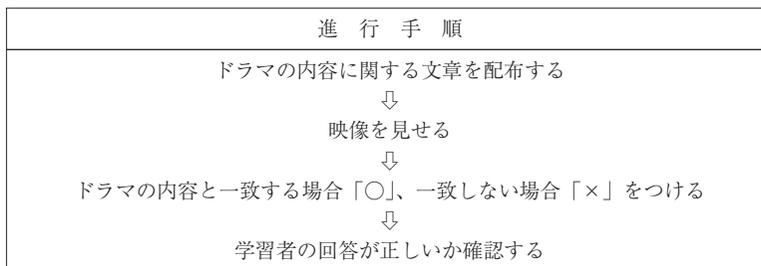
学習者に会話を聞かせる前に、事前に作った質問紙を配る。学習者は、質問の内容に応じて会話の内容を把握し、再び全体の会話の内容を把握する方法である。



2) 聞いて真偽を判断する

ドラマの内容に関する文章を学習者に配布し、ドラマを視聴した後、その文章の真偽を判断する活動である。文章は、ドラマの内容と同じ内容、ドラマの内容と似ているが少し違う内容で作成する。

このような活動を行うことにより、ドラマの内容を正しく聞き取ることができ、特定の状況等を理解することができる。そして、「聞く」の部分を繰り返し行うことによって発音教育にも役立つ。



2. 「話す」教育

「話す」は、音声言語によるコミュニケーション方法であり、多くの割合を占める重要な言語機能の一つである。その機能は、単純な言語表現ではなく、相手の話を聞いて理解し、表現するという能力である。

1) 議論する

この活動は、ドラマを視聴した後、学習者をグループに分け、ドラマの内容や感想について話し合わせる方式である。学習者は、議論を通じて相手の話を聞いて理解する能力と自分の考えを論理的に表現する能力を向上させることができる。

進 行 手 順
ドラマを視聴した後、登場人物の状況を分析する ↓ 例として、先に先生が自分の考えを話す ↓ 学習者は、グループに分かれ、話し合う ↓ 議論が終わった後、グループの代表を一人選んで発表させる ↓ 適切なフィードバックを与える

3. 「読む」教育

「読む」教育には、「声に出して読む」、「黙読」、「熟読」等がある。まず、「声に出して読む」は正確な発音を練習することができ、「黙読」は短時間で内容を全体的に把握するのに役立ち、「熟読」はドラマの内容や言語構造を正確かつ詳細に把握することができる。

このように、「読む」方法を其々の状況に合わせて活用すれば、より効果的な教育を行うことができる。

1) 台本を読む

ドラマのセリフは、教科書の会話と違い、実際に使われている日常言語で構成されているので、学習者のコミュニケーション能力向上に有効である。

台本を読む活動は、内容を正確に理解することができ、語彙や文法等を身につけるのにも有効である。そして、学習者は、台本を読む活動を通して、セリフの表現を自分のものとして消化し、活用することができる。

進 行 手 順
ドラマの台本を配る ↓ 台本を読みながら、下線の単語の意味を推測する ↓ 実際の映像を見せ、学習者の理解を助ける ↓ 台本と映像による理解に基づき、下線の単語の意味を正確に把握し、修正する

2) ダビングする

ダビングは、学習者にとって新しい経験で、興味深い活動になる。自分の発音を聞き、矯正しながら「読む」練習をすることができる。ドラマは、対話形式で構成されているので、実際の会話状況を自然に学習できる有効な教材である。

進 行 手 順
2人一組にペアを組む (ドラマの内容に応じて男女ペアにする)
↓
映像に関連する台本を配る
↓
映像と台本を見ながら、ドラマの会話を身につける
↓
映像を見ながら、ダビングの練習をする
↓
練習が終わったら、発表させる (この時、映像を流し、音は消し、それぞれの役に応じてダビングしてみる)

4. 「書く」教育

一般に、4つの言語機能を言うとき、「聞く・話す・読む・書く」の順で表す。これは、「書く」機能が上位の段階であり、教育や学習活動において最も難しいことを表している。

「書く」教育は、「読む-書く」や「話す-書く」、「聞く-書く」等、他の機能と連携して教育すると、より効果的になる。

1) 書き取る

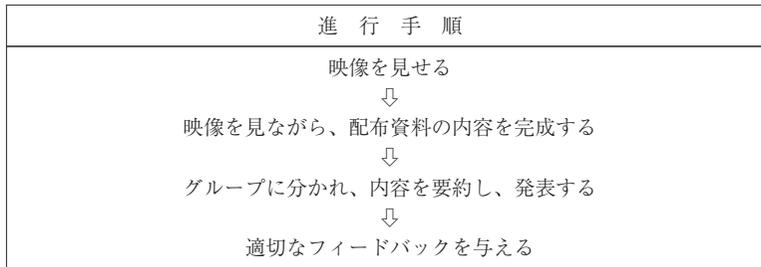
ドラマの映像を見せ、その映像の中のセリフを聞き、事前に配った資料の空欄を埋める。「書き取る」活動は、学習者が集中してドラマを鑑賞するようになり、「聞く」能力と文章の再構築能力を高めることができる。そして、場面を繰り返し見せることによって内容の理解や発音、「聞く」能力の向上にもつながる。

進 行 手 順
映像を聞きながら、配布資料の空欄を埋める
↓
最初はゆっくり聞かせ、学習者が内容を把握しながら書き取れるようにする
↓
2回目からは通常のスPEEDで聞かせる
↓
補足説明が終わった後、空欄に入る言葉を確認しながら再度聞く

2) 内容を要約する

この活動を通して、学習者がドラマの内容を正確に理解しているかどうかを把握することができ、また、「誰が、いつ、どこで、何を、どのように、なぜ」の「5W1H」原則に従い、論理的な文章を書くことができる。

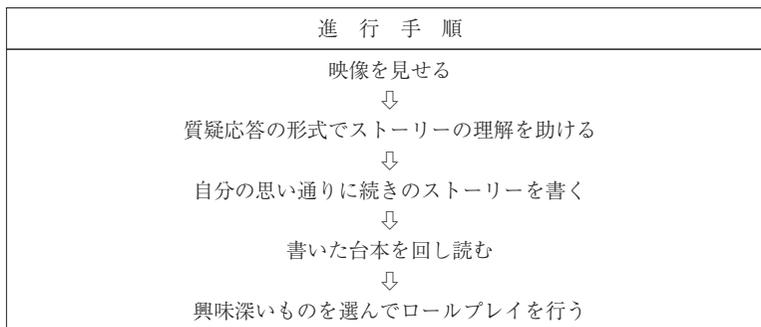
学習者は、グループに分かれ、ドラマの内容を要約し、互いの考えを発表する。このグループ発表を通して内容を正しく理解し、把握することのみならず、「話す」能力を高めることもできる。



3) ストーリーの続きを書く

映像の一部を視聴した後、続きのストーリーを思いつくままに書く活動である。ドラマの内容を十分に把握した後、その場面の続きを台本形式で作成し、さらに、他の学習者が書いた台本を回し読んだ後、興味深いものを選んでロールプレイに発表してみることもできる。

このような活動を通して、自分の考えを文章で表現する能力や読解力と会話力を同時に向上させることができる。



V. TV ドラマを活用した授業モデル

前章では、「聞く・話す・読む・書く」の4つの言語能力を高めるための具体的なTVドラマの活用方法を提示した。本章では、ドラマを活用した具体的な授業モデルを作成し、総合的な教育方法を提案する。

TVドラマを活用した授業モデルとしては、授業の目標に応じたモデル、学習者のレベルに応じたモデル、そして言語機能に応じたモデルに分類することができる。さらに、授業目標をどこに置くかによって「言語教育」と「文化教育」に分けることができ、学習者のレベルに応じて「初級」、「中級」、「上級」のモデルに分類することができる。また、言語機能によっては、「話す-聞く」の統合、「読む-話す」の統合、「聞く-話す-読む-書く」の統合等、様々なモデルが考えられる。

本研究では、「言語教育」と「言語機能」に基づき、ドラマを活用した具体的な授業モデルを2つ提案する。

1. 授業モデル①

【表4 TV ドラマを活用した授業モデル①】

段階	授業内容	言語機能の連携
事前準備の段階	学習者に見せるドラマを選ぶ ↓ ドラマの内容を事前に確認し、内容を編集する (学習する言語的要素を抽出する) ↓ 詳細な学習指導案を作成する	授業と「聞く-話す-読む-書く」 の連携のための事前準備活動
視聴前の段階	質疑応答により、学習者の興味を引き起す ↓ ドラマの写真やポスター等を見て授業目標を予測する ↓ 大概の内容と筋書を説明する	「話す-聞く」、「読む-話す」の 連携
視聴の段階	編集したドラマを鑑賞する ↓ セリフのないシーンを見て推測する ↓ 見て感じたことを話す ↓ 台本の一部を読み、言語要素を抽出する ↓ ストーリーと内容を完全に理解する	「聞く-話す-読む-書く」の連携
視聴後の段階	内容を要約して書いたり、発表したりする ↓ 課題活動を実行する	「書く-話す」の連携

1) 事前準備の段階

まず、授業で利用するドラマを選定し、その内容を確認し、コアの内容を編集する。そして、具体的な学習指導案を作成する。

2) 視聴前の段階

これから学習する内容と理解してもらうために、関連写真やポスター等の資料を用いて視聴内容を説明し、学習意欲を刺激する。

3) 視聴の段階

学習者がドラマの内容をちゃんと理解できるように指導しなければならない。セリフがなく、映像だけを見て内容を推測する必要があるため、登場人物の仕草、姿勢、表情を注意して見なければならない。

4) 視聴後の段階

内容を要約したり、書いたり、発表したり、テーマに合わせて様々な課題活動を実行する。

2. 授業モデル②

【表5 TVドラマを活用した授業モデル②】

段 階	授 業 内 容	言語機能の連携
導入の段階	学習目標を提示する ↓ 質疑応答を通じて学習内容を確認し、興味を引き起す ↓ 映像の重要なシーンを見せ、学習内容を推測させる ↓ 映像情報を説明する (登場人物と登場人物の関係等)	「聞く-話す」の連携
展開の段階	(3回の映像視聴を通してストーリーを把握する) 1回目の視聴：音を消し、映像のみを見る ↓ 2回目の視聴：画面を消し、音のみを聞く ↓ 3回目の視聴：音と画面を一緒に見る ↓ 映像を活用し、語彙や文法等の主要な表現を学習する	「聞く-話す-読む」の連携
発展の段階	映像の内容を用いて練習する ↓ 映像の内容を用いて活動する 【映像の内容を要約し、発表する】 【続きのストーリーを書く・話す】 【映像の会話を書き取る】 【映像の音を消し、ダビングする】	「聞く-話す-読む-書く」の連携
まとめの段階	学習内容をまとめる ↓ 課題を出し、次回の学習内容を予告する	「聞く-話す-読む-書く」の連携

1) 導入の段階

学習目標を提示し、質疑応答を通して学習内容を確認しながら、学習者の興味を引き起す。次に、映像の重要なシーンを見せ、学習内容を推測させる。学習者の理解を助けるために登場人物と登場人物の関係等について説明し、次のステップに移る。

2) 展開の段階

学習者に映像を3回視聴させ、ストーリーを把握させる。1回目は、音を消し、画面のみを見せる。登場人物の仕草、姿勢、表情等を通してストーリーを推測させる。2回目は、画面を消し、音のみを聞かせる。聞いた内容と1回目の推測結果を通して再びストーリーを推測させる。3回目は、音と画面を一緒に見せる。学習者は、登場人物を再度認識し、1回と2回目の視聴で理解できなかった部分を再度視聴し、完全に理解できるようにする。また、ストーリーを理解するために、映像を活用し、語彙や文法等の主要な表現を説明し、学習する。

3) 発展の段階

学習者に練習問題を配り、学習した単語や文法等の主要な表現を確認させる。また、様々な活動を通じて学習者の「聞く-話す-読む-書く」の各領域の能力を高める。

4) まとめの段階

質疑方式で授業内容をまとめ、課題を出し、授業を終了する。

VI. 結 論

本研究では、韓国語教育における TV ドラマの活用意義と選定における留意点について考え、「聞く・話す・読む・書く」の言語機能を高めるための活用方法や具体的な授業モデル及び教育方法を提示した。

まず、韓国語教育における TV ドラマの活用意義については、「言語」「文化」「学習」の3つの側面から、①実用的な言語を提供する、②非言語コミュニケーションの方法を提示する、③総合的な言語教育を可能にする、④文化の理解が自然にできる、⑤学習動機付け及び興味を維持することできる、の5つの意義について考察した。

そして、TV ドラマを効果的に活用するための選定基準として、「学習者」「言語」「内容」「構成」の4つの側面から、①学習者の興味を引き起すことができるドラマを選ばなければならない、②方言や俗語がたくさん使われているドラマは避けなければならない、③専門用語が多く使われているドラマは避けなければならない、④話すスピードが速すぎるドラマは避けなければならない、⑤暴力的な内容のドラマは避けなければならない、⑥民族感情を刺激するドラマは避けなければならない、⑦様々な素材を含んでいるドラマを選択しなければならない、⑧時代背景が現代のドラマを選択しなければならない、⑨ストーリーの展開が速くないドラマを選択しなければならない、の9つの基準にまとめてみた。

さらに、「聞く・話す・読む・書く」の4つの言語能力を高めるための TV ドラマの活用方法として、①状況を分析しながら聞く、②聞いて真偽を判断する、③議論する、④台本を読む、⑤ダビングする、⑥書き取る、⑦内容を要約する、の7つの活動方法を提示し、最後に、具体的な授業モデルを2つ作成し、提案した。

本研究は、テキスト中心の教育に対する反省から始まり、TV ドラマを活用した韓国語教育が、単なる興味中心のものではなく、「聞く・話す・読む・書く」の4つの言語能力を高める上で有効であることを明らかにしてきた。外国語教育においてテキストは重要であるが、テキストのみで授業を進めるには限界がある。その限界を補うための良い教材として、ドラマを活用することは意義があるというのが本研究の趣旨である。

しかし、TV ドラマを利用する教育には、幾つかの問題が残されている。まず、語彙の問題であり、レベルに合わない語彙が提示される場合があるので、これをどのように教育するかを考えなければならない。また、文法の場合も同様であり、ドラマに出る文法を形態別に教えなければならない場合、その数は多すぎる。そして、ドラマごとの発音の違いや方言の問題も考慮しなければならない。

これらの問題を克服するためには、教育用のドラマを製作する方法も考えられる。もし、そのような教育用のドラマを製作するのに多くの問題がある場合は、教育的価値がある部分のみを編集するのも一つの方法である。

本研究の限界としては、授業モデルを具体的に提示できてない点である。今後、選定基準に沿って教育資料としての価値の高いTVドラマのリスト作成と学習者のレベルやドラマの種類に応じた多様に細分化された授業モデルを提案したいと思う。

参考文献

- キム・ソンスク (2015)、『韓国語のライティング教育の理論と実際』、キョンジン出版
金泰虎 (2006)、『韓国語教育の理論と実際』、白帝社
朝鮮語教育研究会 (2012)、『韓国語教育研究に対する回顧と課題』、韓国文化社
ナム・ソンウ (2006)、『言語教授理論と韓国語教育』、韓国文化社
野間秀樹 (2007)、『韓国語教育論講座』、くろしお出版
ハン・ジェヨン (2013)、『韓国語教育研究の現況』、新旧文化社
バク・カップス (2013)、『韓国語教育と言語文化教育』、ヨンラック
バク・ヨンスン (2004)、『外国語としての韓国語教育論』、ウォルイン
イ・イルス (2015)、「ドラマの活用を通じた韓国語教育コンテンツの改善方向」、『韓国コンテンツ学会論文誌』第15巻4号、韓国コンテンツ学会、pp.45-55
イ・ジョンヒ (1999)、「映画を用いる韓国語授業法案の研究」、『韓国語教育』10巻1号、国際韓国語教育学会、pp.221-245
イ・ジョンヒ (2004)、「韓国語副教材開発に関する学習者要求調査及び構成方案」、『二重言語学』25号、二重言語学会、pp.233-254
イ・ミヘ (2011)、「ドラマを活用したリスニング中心の韓国語授業の構成」、『外国語としての韓国語教育』第36集、延世大学校言語研究教育院韓国語学堂、pp.189-216
キム・チョンジャ (1997)、「韓国語教育と課題」、『教育ハンゲル』第10号、ハンゲル学会
チェ・インジャ (2004)、「メディアを活用した韓国語教育方法」、『語文学教育』第28集、韓国語文教育学会、pp.267-286
野間秀樹 (2002)、「韓国語文法教育の新しい展開のために」、『外国語としての韓国語教育』第27集、pp.83-101
盧命完 (1998)、「韓国語教育資料の構造に関する分析」、『二重言語学』15号、二重言語学会、pp.77-78
バク・チャンスク (2008)、「韓国文化教育と韓流の連関関係研究」、『言語と文化』第4巻2号、韓国言語文化教育学会、pp.119-138
ユ・キョンスウ (2011)、「ドラマを活用した韓国語教授法の実際」、『国語教育研究』第49集、国語教育学会、pp.291-328